

---

# 薬味は刻んでこそ薬味

ネギ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

薬味は刻んでこそ薬味

### 【Nコード】

N9863N

### 【作者名】

ネギ

### 【あらすじ】

電車にアタックして死んじゃった俺がチート化して転生だぜ！

何番煎じだろうと気にしない！

ネギま！の世界をぶち壊してやんよ！

待ってるよ！？ネギ、お前のフラグはへし折ってやる！！

この作品にはテンプレ成分が大量に含まれて居ます。

## プロローグ（前書き）

テンプレ成分多分です。

あと、この作品はオリジナルを書いている合間にふと思いついたくらいで執筆します。

更新速度は非常に遅くなりますが、ご了承ください。

## プロローグ

いつもの帰りの駅のホーム

俺は悪友と一緒に電車が来るのを待っていた。

電車がホームに滑り込んでくる。

と。

目の前で少女が線路に落ちた。

隣の悪友は線路に飛び降りようとした。

が、

それより早く俺が飛び込んだ。

少女を抱えてホームに持ち上げる。

電車はもう目の前まで迫っていた。

俺が最後に見たのは、驚いたまま固まっていた親友あくゆうの顔だった。

「で？なんで俺はこんなことになってるわけさ？」

俺が現在居るところ 白い部屋・・・部屋？

いや、部屋とっていいのかこれ？

見渡す限り白一色で、壁とか見当たらないんだが・・・

「そりゃそうよ、だって区切りとか無いもの。」

声のしたほうを向くと、そこには幼女が立っていた。

「だれが幼女よっ！」

「心でも読めるのか？」

「そりゃああたしは神様だからねっ！」

そういつて目の前の幼女は断崖絶壁を張る。

「誰が断崖絶壁幼女だっ！！！」

「いや、別に俺はイイと思うよ？」

だって、幼女好きだし。

「へんたいだったー！！！！！」

「失礼な、ヘンタイという名の紳士だっ！」

「どーでもいいわっ！！！！ はあ、こんなやつならほっときゃよかった……」

「んで？なんで俺こんなところにいるのさ？」

「話が進むのはありがたいんだけど……」

「んで？何で俺死んだの？ そっちのミスとか？」

「失礼ね、ミスなんかしてないわよ。」

「じゃあ何で？」

「わかんないわよっ！ 本当ならアンタの隣に居たやつが死ぬはずだったのに！」

なんか、殺す相手を間違った殺人犯みたいだな……

「誰が殺人犯よっ！ ああもう！説明するから聞いてなさいっ！」

いわく、俺は本来死ぬはずの無い人間で、輪廻から外れてしまっているらしい。

そこで、俺の取れるこれからの行動は3つ。

1つ、現世にとどまって、永久の時を過ごす。

1つ、天界へ行き、神に仕える天使どれいとなる。

1つ、他の世界へ転生して、正しい生を送り、輪廻に回帰する。

「正しい生ってなんだ？」

「転生した世界で一生を終えるってこと。輪廻から外れてるから元の世界に戻れないのは分かるわよね？」

「まあ、とりあえずは。」

「で、必然的にもといた世界とは違う並列世界、アンタたちでいう漫画とかアニメの世界ね。」

「ふむ、即ちそのストーリーに俺が関わって、歴史が変わらないようにしろと。そういうわけだな。」

原作介入できないのか・・・残念。

「いや、むしろその逆よ？」

「へ？」

「アンタが居る時点で歴史は変わってるんだから。むしろストーリーに介入して行くことが正しい生の形であることが多いわ。」

なん・・・だと・・・？

「じゃあ3番目ですー!ー!ー!」



「……いいの？ 正しくなければまた他の世界でやり直しよ？」

「いいんだよ、それで。」

うまくいけばいろんな世界回れるからな。

ひゃっほい！

「……このまま地獄に還してもいいかしら……」

「やめてくれｗｗｗｗ」

「……ジュー……」

「誠に申し訳ございませんでしたっ！！！！」

「……まあいいわ、で？どこがいいの？」

「え、俺好きのところ行けるの？」

「まあ……ね。」

なんか、気になる間があったが気にしない。

「じゃあ、『ネギま！』でいいか？」

「これまた危険な世界ね……」

「もちろん、能力とかはつけてもらえるんだよな？」

「当たり前でしょ？（じゃないと面白くないし。）」

「どうせ個数制限かかってんだろ？」

「よく分かってるわね、5個よ。ただし、身体能力は別にしてあげるわ。」

「お、ありがたいねえ。んじゃあ・・・ テイルズシリーズの術技全部くれ。秘奥義も。」

「チ・・・チート・・・」

「当然だろう！」

転生チートは男のロマン！

「あとは・・・魔法の適正全属性MAX！ もちろん、最初から全魔法習得済みでっ！」

「はいはい、それから？（棒読み）」

「新魔法&魔道具開発の才能と使用能力、それから、錬金術！あとは・・・」

「もうちょっと節操持たない？」

「だが断る！ 最後に無限の剣製くれ。」

「あー・・・もういいわ。orz・・・」

神様もうなだれることあるんだな……

「そりゃあるわよ。 あーもう！ 体のほうは、不老不死、魔力は近衛このかの10倍！気は戦時中ラカンの10倍でいいわね!？」

「修行で増えるようにしてくれると助かるな。」

「もう好きにしなさい!」

「わーい」

「……疲れる……」

あれ？よく考えたらこれ、かなりチートじゃね？

「考えなくてもわかりなさいよつ!!!! ……はあ。」

「神様大丈夫かよ……」

「誰のせいよつ!!!!」

「んーと……あ!」

大事なこと忘れるところだったぜ!

「何よ？ もう能力はつけないわよ?」

「わーってるよ。 神様の名前を聞いてなかったからね。」

「っ!?!? なんですよ?」

「だって、2度目の人生の親だぜ? 親の名前ぐらい知っておきたいし。」

「……テレサよ。」

「そっか。テレサか……  
んじゃ、いつてくるよ、テレサ。」

そういつて俺は左手を上げた。

「……行ってらっしゃい。馬鹿。」

テレサが左手をあげるのを見届けて、俺は意識を失った。

……あれ? 俺不老不死になったら一生が終えられないんじゃない? ……?  
?

side テレサ

アイツが消えるのを見届けた私は、もう一度アイツの人生の書かれ

た書類に目を通した。

アイツの死ぬのはあと68年後のはずだった・・・

間違いは無い。

隣のやつが死ぬはずだった・・・

それなのに、アイツが死んだ。

「神の決めた法則うんめいを破る人間か・・・ おもしろいんじゃない？」

ま、見届けさせてもらおうかしら。

あれ？そういえば不老不死って・・・？

## プロローグ(後書き)

さて、次回からは・・・

どうなるんでしょう？

私も分かりません。(え

1 話目 魔術の威力がダンチなんだが・・・(前書き)

もう試験とかどうにでもなれってんだ!!

## 1 話目 魔術の威力がダンチなんだが・・・

目を覚ますとそこは・・・

森でした。 うん、ありきたりとか言わないように！

お兄さんとの約束だぞっ

・・・おえっ

一応服は着せてくれたみたいです。 全裸じゃなくて良かった・・・

何でジアビスのシンクの服装なのかはワカランが・・・

しかも仮面つき・・・

すると頭に声が響いてきた。

コレが聞こえてるってことは、無事に転生できたってことでしょう？

「ああ、そっだな。」

少し忘れてたことがあるから言っておくわ。

ちなみに、アンタからあたしへの言葉は聞こえないから。



「返事した意味は……?」

まず、アンタの顔のことだけど……

アタシ好みの顔にしておいたから!

ありがたく思いなさい!

「そこまでありがたくないっ!」

髪型は、右側の前髪が目にかかるようにしといたから!

「ということは……魔眼かつ!!?」

そうやって俺は右目にかかった前髪をかき上げる

ちなみに魔眼とかないから。髪かき上げてたら痛々しいわよWWW

「クソがあああ!!!」

ちなみに、テイルズの技は名前を言いながらイメージすれば出せるようにしておいたわ。

せいぜい楽しませてよ?

じゃ。

テレサ

「・・・なんだったんだアイツ・・・ てか、二二二二だよ・・・」

すると、遠くのほうで大きな爆発音がした。

「いつてみるか・・・」

少年移動中・・・

「はい、つきました」

「なんだ貴様はっ!!?」

「通りすがりのチートです」

はい。 幼女もといエヴァちゃんが襲われていました。

「お前らさぁ・・・こんなよってたかってこんな小さい子をっ!!」  
「？」

俺が正義の魔法使い(笑)どもに説教をしようとしていると、  
上からチャチャゼロが降ってきた。

「チッ! 当タレヨッ!」

「んな痛そうな得物持ってんだ! 当たりたくないわ!」

正義の魔法使い（笑）空気www

と思ったら・・・

「ええい！ 貴様も仲間かつ！ 消えろっ！ 千の雷！」

お、俺らが話してる間に詠唱してたか・・・

やるね

「人が話してる時は話しかけちゃだめって教わらなかったか？ サ  
ンダーブレードッ！！！」

目には目を。 雷には雷をとてね。

いや、今考えただけだが。

ちなみに俺がイメージしたのは、ジァビスの空から降ってくるアレ  
だ。

案の定、千の雷をたやすく打ち消し、 正義の（ry（笑）を突き  
刺し、焼き尽くした。

灰すら残らん。

うーむ・・・ 威力はかなり高くなってるな・・・

つと……エヴァを回復してやらないとな……

「よう。元気か？ 闇の福音？」

「ゲツ…… 殺すなら殺せ……」

おー怖い。 殺気全開。

でも幼女。

「その傷は？ 不死殺しの呪か？」

「何をする気だ……？」

「ふむ…… フェアリーサークル！」

俺が一言唱えると、柔らかな光がエヴァを包んだ。

「どうだ？」

「……貴様、何をした？」

あるえ〜？ 敵対心が下がらないよ???

「別に？ 簡単な解呪と少し強めの治癒を同時にやったただけだが？」

「……何が目的だ？」

「別に？（沢尻さん風に） それはそうと、その人形大丈夫なのか？」

「ッー!!」

そういつてチャチャゼロを抱きすくめる。

「……最後に聞く、貴様何者だ？」

「いい質問ですねー!!」

「池上 章!!?」

「なぜ知っている!!?」

「こっちにもいるのか!!?」

「いや、なんでもない。で、貴様何者だ？」

「ふむ……通りすがりのただの人間だ。」

そういつて颯爽と立ち去る俺。

カッコイイ!!!

……すみません。調子乗りました。

まあ、エヴァとはここで別れてもまたどこかで会うだろ。 うん。

と、思っていたころもありました。

「・・・ 何でついてくる？」

「フ、フン！ たまたま目的地が一緒だったただけだ！」

「・・・ 目的地は？」

「お前の目的地はどこだ！？」

「・・・ 疲れたよパトラッシュ・・・」

あゝもう！ 鬱陶しい！

「なんなんだよお前は！ なぜついてくる！？」

「だ、だから、たまたまお前と・・・」

「じゃあなぜお前は目的地を言わない！？」

「……」

「やば、エヴァ涙目になっちゃってるし!」

「ああもう! めんどくせえ!

「一緒に来たいのならそう言えばいいだろう?」

「へ?」

「どうなんだ? 違うならそう言え。」

「……たい……」

「あ?」

「一緒に行きたい!」

「……言っただいいが、面倒だ……」

「やっぱり駄目か?」

「あーもう! 勝手にしてくれ!」

「考えるのも面倒になってきたし…… とりあえずあえず歩く!」

「ケケケ。二人トモ素直じゃネエナ」

「チャチャゼロのそんな声が聞こえた。」





1 話目 魔術の威力がダンチなんだが・・・(後書き)

勉強がはかどらない試験3日前。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9863n/>

---

薬味は刻んでこそ薬味

2010年10月10日15時43分発行